

## 仙北市総合教育会議 会議録

開催日時 平成30年9月27日(木) 午後1時00分

開催場所 仙北市役所 角館庁舎 西側庁舎2階 第3会議室

出席者

(構成員)

仙北市長	門脇光浩
仙北市教育委員会教育長	熊谷徹
仙北市教育委員会教育長職務代理者	安部哲男
仙北市教育委員会委員	河原田修
仙北市教育委員会委員	坂本佐穂
仙北市教育委員会委員	橋本勲

(市長部局)

仙北市副市長	倉橋典夫
総務部長	阿部慶太
総務課長	朝水勝巳
総務課主事	小林佳織

(教育委員会)

教育部長	戸澤浩
教育次長	浦山英一郎
教育次長兼教育総務課長	浅利美智子
北浦教育文化研究所長	三浦政喜
生涯学習課長	佐々木幸美

## 案 件

### (1) 仙北市学校適正配置について

阿部総務部長       平成30年度第2回仙北市総合教育会議を開催いたします。  
はじめに、門脇市長からごあいさつをお願いいたします。

門脇市長           改めまして、皆さん、今日、またお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。9月の仙北市議会定例会が開会中でありまして、明日最終日となりますけれども、まず皆さま方にお詫びを申し上げなければいけないことは、昨日の予算常任委員会で、これまでご議論いただいて提案させていただいた、私、提案者、提出者であります。総合給食センターの2カ年に渡る継続予算の今年度分の事業費、約1億2千数百万円でありましたけれども、減額修正ということで、予算常任委員会での判断は、そのまま議員全員出席の委員会ですので、明日の本会議も同じ状況になるということは確定しております。改めて、予算の出し方について、私共も反省すべきところは反省させていただきながら、一刻も早く、予算再提出ということに向けた作業を行わなければという状況にあります。新聞報道等でもありますように、今回の総合給食センターの減額修正の主なる理由と申しますのは、この20日に実施設計が上がってくるという日程であるにも関わらず、議会でそれを議論することになると、日数が少なすぎて、最終日までに精査ができないというような、そういうお話でありました。予算の考え方に議会と私共の溝があるということも今回の案件でよくわかりましたし、さらに言うと、その精査の仕方ということについても、議会の皆さま方がどのように思っているのかということも今回知ることができた。「この定例議会で提案しなければよかったじゃないか」という話が一方でありますけれども、例えば、1日限り、通常は1日限りであります。臨時議会を開催しその場面でこの提案をさせていただくとすると、まさに、

議論いただく時間が非常に少ないということになり兼ねません。私共としては、定例議会でしっかりと予算常任委員会、また、各分科会等で、この案件について、議論していただくという時間を作りたい気持ちもありましたので、提案させていただいたのですが、今回は、修正案ということで全額減額ということになりました。改めてお詫び申し上げたいと思います。それも含めて、今回の総合教育会議は、案件としては、「仙北市学校適正配置について」ということもございますし、その他についてもいくつか案件を用意させていただいております。皆さま方と一緒に仙北市の教育行政を大きく区分、それとまちづくり全般に向けて議論する場面でありますので、よろしくご協力方お願い申し上げたいと思います。ありがとうございます。

阿部総務部長　　続きまして、熊谷教育長からごあいさつをお願いいたします。

熊谷教育長　　今日は、どうもご苦勞様でございます。只今、市長からもありましたけれども、給食センター関連で本当に皆さまにご心配をお掛けしました。申し訳ございませんでした。このあと、教育委員会一丸となって、建設に向けて議会の理解を賜るように全力で向かって参りますので、どうかよろしくお願いいたします。

阿部総務部長　　ありがとうございました。それでは、協議案件に入ります。本日の協議案件は、「仙北市学校適正配置について」ということでございます。ここからの進行は、市長の方からよろしくお願いいたします。

門脇市長　　はい。それでは、協議案件に入ります。「仙北市学校適正配置について」であります。教育委員会から説明をお願いします。

浦山教育次長

はい。お手元の資料をご覧ください。「学校適正配置について」という2箇所綴じしたものと、「会議録」がお手元にあるかと思います。はじめに、2回目の学校適正配置に関する意見交換会の概要を説明させていただきたいと思います。

まず、桧木内・上桧木内地区におきましては、8月27日と28日、2日間にわたって意見交換会を行いました。主な意見としては、「通学距離や通学時間に対する負担感、不公平感」、「少人数だからこそその成果、現状がベスト」、「学校がなくなると地域に大きな影響がある」、「部活動の合同チームでも切磋琢磨はできている」、「統合を繰り返すことによる保護者、生徒への負担」、「西明寺地区でも開催すべきではないか」というように、否定的な意見が大勢を占めてございました。また、中川地区におきましては、8月29日に意見交換会を行いまして、「どうすれば学校を残せるかという議論も必要」というような意見も出ましたけれども、特に保護者の方々からは、「子どもたちのことを考えると、早めに統合すべき」、「子どもたちにとってより良い条件ややり方で統合を進めてもらいたい」、「統合しても、子どもたちに自分のふるさとに誇りを持ってもらいたい」、「統合した場合の校舎の管理や地域の拠点施設となる活用をお願いしたい」というような、統合もやむなし、あるいは、どんどん進めて欲しいという意見がございました。

次に、8月30日に行いました、定例教育委員会協議会の内容を報告いたします。そこではまず、2回の学校適正配置の意見交換会を経まして、「ある程度の方向性を示す時期にきているのではないか」という意見がございました。そして、今後の方向性の1つの案としましては、桧木内中学校につきましては、「現時点での適正配置は難しいのではないか」、「継続協議というのが適切ではないか」という意見がございました。また、中川小学校につきましては、「適正配置の具体に入るべきである」、そして、別紙にありますような、「中川小学校適正配置計

画（案）」を策定させていただきました。こちらは、後で説明させていただきますと思います。本日の総合教育会議におきまして、今後の方向性及び進め方、中川小学校適正配置計画（案）については、ご議論いただきたいと思います。今後の進め方については、11月下旬に、第3回学校適正配置に関する意見交換会を桧木内・上桧木内地区、中川地区、それぞれ1回ずつ行いまして、今後の方向性等について提案し、協議を行うとともに、12月7日と8日に西明寺中学校と角館小学校のPTA参観日がございますので、その際に、各地区の住民の方々にもご出席をご案内いたしまして、「これまでの経緯等から今後の方向性等について、説明・提案をしたり、意見交換をしたりしたらどうか」という案が出ました。ただ、「西明寺地区でも意見交換会を行うべきではないか」という意見がございまして、これを第3回目の前に行うべきかどうか、そこが非常に議論の分かれるところでございました。

3ページ目をご覧ください。3ページ目は、「中川小学校適正配置計画（案）」でございます。1の「基本方針」として、「（1）中川小学校と角館小学校を統合する」、「（2）校舎は、角館小学校の校舎を活用する」、「（3）通学環境を整備し、通学に伴う負担をできる限り軽減する」、「（4）地域に根ざし、地域との連携を重視した教育活動の継続・充実を図る」、2の「学校適正配置に向けたスケジュール」については、そこにあるとおりでございます。来年度、学校間交流、そして、開校準備委員会（仮称）によって準備を進め、平成32年4月に統合小学校スタートというようなスケジュール案です。3は、「学校適正配置後の児童数・学級数予測」でございます。そして4、「学校適正配置へ向けての留意事項」ということで、「学校適正配置にあたっては、お互いの学校のよさや優れた点などを引き継ぎながら、活力ある学校作りを進める」、「（1）開校準備委員会（仮称）を設置し、校名、校歌、通学方法、PTA活動等について検討する」、「（2）開校に向けて、学校行事等の合同実

施や交流学習会などを計画的に取り入れることにより、相互の学校の取組内容の共有化を図るとともに、児童の新しい環境に対する不安感を軽減し、期待感を高めるようにする」、「(3) 相互の学校の地域に根ざし、地域と連携した教育活動を吟味し、統合校の教育課程に適切に位置づけるようにする」、「(4) 開校までの間、部活動等について合同チームを編成するなどの対応を行う」、「(5) スクールバス等の通学手段の確保と効率的な運行経路の設定等により、通学に伴う負担を軽減する」、「(6) 学校施設の後利用については、地域住民や保護者等の声も十分に受け止め、その利活用を検討する」というものでございます。私からの報告は以上でございます。今後の方向性、進め方、そして、中川小学校の適正配置計画（案）について、ご協議をよろしくお願いいたします。

門脇市長

はい。ありがとうございます。この後は、意見交換の時間とさせていただきます。まず、委員の皆さま方からご意見いただきたいと思っておりますけれども、安部教育長職務代理者からお願いします。

安部教育長職務代理者

はい。それでは最初に、桧木内・上桧木内地区に、8月27日、28日に意見交換会へ行った時、否定的な意見が大勢を占めていたということは、事実でありますし、いろいろな意見が出ましたけれども、結局は、通学距離という物理的な距離を解消できない限り、やっぱり30キロという距離は、大きな壁と言いますか障害と言いますか、になっていて、いろいろな理由がありますけれども、それよりも何よりもこれが大半を占めているのではないかと私は思っています。私たち、教育委員会が、統合した方が良いですよ、という教育的な見地からの理由は、すべて、おそらく桧木内の方々は、理解していると思います。だけれども、この距離の部分については、私の感じとしては、これはちょっとどうにもならないな、と言うか、30キロ

という距離は、西明寺の学校で統合するということが前提だとすれば、ちょっと難しいな、というのを感じました。それから、もう1つ付け加えておきたいなと思ったのは、「今の学校でもベスト」という意見もありましたが、本当はベストと言えるかどうか。私たちが考えている統合を阻むものはたくさんあるわけで、今回統合しない、しばらくは継続審議という形になるとすれば、いずれにしても、デメリットと思われることを教育委員会として、どういうふうにかバーしていくか、ということは、大事な教育委員会の役割だな、ということを感じて帰って来ました。以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

坂本教育委員、お願いします。

坂本委員

資料を隅から隅までじっくりと読ませていただきました。予想どおりだった意見、それから予想外の意見、それぞれありまして、落ち着くところは、この桧木内地区に関しましては、中々統合が難しいのではないかと、距離的なことから通学の時間、中学生とはいえ、かかる負担が大きいのではないかと、というところを感じました。中川地区につきましては、予想外に、住民の方が肯定的な考えをお持ちだな、という印象を持ちまして、小学生だからこそ新しい環境に馴染めるといふところもあるのではないかと、思いました。子どもというのは、意外に順応性があるんで、新しい仲間を受け入れることには、積極的な面もあるので、中川の人たちはひょっとしたらそういう考えをお持ちで、中川小学校の中にいて6年間同じ友達と付き合いただけではなく、大きいところに行く自分にもっと合った友達、仲間作りができるかもしれない、もっともっと可能性が広がるかもしれない、という意見をお持ちだなと感じました。この資料の「今後の方向性」ということに関しても、これが現状としては適切ではないかな、というふうに感じております。以上で

す。

門脇市長

はい。ありがとうございました。  
橋本教育委員、お願いします。

橋本教育委員

はい。まず、学校適正配置については、「地域や保護者の皆さんの意見を尊重して、且つ、理解を得て方向性を定める」という考え方だったと思います。桧木内中学校の場合、通算5回の意見交換会を行いましたけれども、学校適正配置を進めることについては、資料にあるように、地域や保護者の皆さんが大変心配、懸念しているという、そういう意見が様々出されました。また、学校適正配置について、前向きな発言や意見というのはなかった、というふうに思っております。桧木内中学校は、平成25年度から30人規模の生徒数で推移しておりますけれども、そのことについて特段、心配、不便、不都合といったような意見も聞かれませんでした。私としては、こうしたことや意見交換会で出された心配、懸念される様々な事柄について、短期間で解決策を見出して地域や保護者の皆さんの理解を得るのは、困難であると思います。ということで、現段階では、現在の学校を維持して30人規模の生徒数で学校運営をすることによる、生徒へのメリット、あるいは、デメリット、そういったものについて、もう少し検証、検討していく必要があるのではないか、というふうに考えます。また、地域的なことも併せて考えていく必要があるのではないかな、というふうに思います。現在の学校を維持することによって心配される、多様な人間関係の構築とか切磋琢磨、そういうことについては、他の学校の協力を得ての合同の学習、あるいは、校外活動、発表会、校内の記録会とかそういったもので定期的に交流しながら、多くの生徒の中で学ぶ機会というものを増やしていく必要があるのではないかな、というふうに思います。中川小学校の場合については、さっきもお話ありましたが、児童数の推

移などから、統合については前向きに考えている意見が大勢であったと思います。この後、統合に向けた準備、説明、そういったものを行いながら進めていくことが大切ではないかなと思います。それから、地域の皆さん、学校を「地域の核」というふうに考えている意見が非常に多く出されておりますので、今後の中川小学校の利活用というものについても、これは、市も含めて地域の皆さんと一緒に相談、協議、検討していく必要があるのではないか、というふうに感じました。以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

河原田教育委員、お願いします。

河原田教育委員

はい。今、委員の皆さまがお話なさったように、通学時間とか通学距離ということがかなりネックになっているな、ということが感じられました。教育委員会としては、やっぱり人数が少人数になってくることを懸念して、多様性だとかということ尊重して統合することを進めようとしたのですが、それができないのであれば、そのデメリットである多様性の意見を聞くということを実践できるように、今橋本教育委員さんとも言われたように、他の学校、西明寺中学校と桧木内中学校との交流をすることによって、そのデメリットをカバーするような方策をとっていくことが重要ではないか、と思いました。それと、中川小学校の統合につきましては、参加者の中の年配者の方は、やっぱり小学校を地元に残して欲しいというようなことではありましたが、当事者である小学生の保護者の方々の「やはり統合もやむなし」、「大人数の中で子どもの教育をお願いしたい」という意見を聞きますと、こちらに関しては、やっぱり統合の方向で進めるべきではないか、と思いました。以上です。

門脇市長

はい。ありがとうございます。

熊谷教育長、お願いします。

熊谷教育長

はい。桧木内・上桧木内地区につきましては市長から、中川地区につきましては副市長からご出席をいただき、大変良かったなと思っております。桧木内中の場合は、先ほどからもありますが、やはり通学時間の問題、それから特に上桧木内地区の皆さんですけれども、2回目の統合ということに非常に不信感が強いような雰囲気を感じました。やはり、継続協議という方向でいく方が良いのではないかと、というふうに感じました。中川地区につきましては、保護者の方がまとまっていて、統合もやむなし、子どもの成長のために統合していこう、というような非常に前向きな姿勢が強く感じられました。「急いで欲しい」というような言葉もありまして、私たちは、それを受けて統合の方向に向けて進んでいくべきではないかと、感じたところがありました。以上であります。

門脇市長

ありがとうございました。私も副市長も参加しておりますので、感じたことをお話しさせていただきます。

桧木内中学校でのお話、父兄方々等も交えてのお話、上桧木内地区の方々等とのお話、その時も言いましたけれども、子どもたち、自分の経験でもそうなのですが、友達がいる分だけ自分の新しい何かを発見できるというような体験をずっと小さい頃からしてきたので、友達の数が多かった方が良いという話を私はしましたけれども、今の学校の状況をとて皆さんは大切に思っているということを改めて感じました。教育委員会として、統合のメリットがこのような形です、ということをしかりとお話できたというふうに私は思います。しかしながら、桧木内地区、西明寺中学校との統合については、否定的だったということですので、これは今教育長もお話したとおり、継続して地域の方々にお話していくということが必要だと思います。だけれども実は、教育的見地からすると、こういう学校作り、子どもたちにこういう教育を提供したい、というよう

な思いというものは、一方できちんとあるわけで、そうならない状況の方々に対して、この教育的な高まりを、そうならない状況でも成し得ていくということの作業は、この後も必要だという話も改めてお話させていただきたいと思っております。

中川地区については、副市長の方から少し感想をお願いします。

倉橋副市長

市の立場としてご質問を受けまして、統合した校舎の活用等について、ご意見がございましたので、私の方からは、決定したことではございませんけれども、例えばということで、中川保育園を中川小学校の校舎の一部を利用して移設できないか、ということをお話しておりますし、また、田沢小学校の例をとりまして、地域の拠点施設として地域の方々に利用していただくことも可能である、というお話をしています。いずれにしても、統合が仮に決定した場合、校舎と学校用地について、引き続き利活用していく、ということを経営の皆さんと協議しながら進めていきたい、というお話をしております。これは、市の責任において進めていかなければならないと思っております。

また、その他に、「統合にならないように手立てが他にないか」という、「別の方から子どもさんを中川小学校に入れる」とか色々なご提案がございまして、そうしたものは検討させていただきたい、という話はしていますけれども、参加者の中からは、「中川小学校は、現に今ここにいる方々を大事にするという、別の方から入れるのはちょっと違うのではないか」というような意見もございましたので、そうしたものも含めて、さらに検討していきたいと思っております。以上です。

門脇市長

ということで、これまでは、中川小学校と桧木内中学校を同じ進め方で意見交換会をやらせていただいたのですが、この後の対応は、それぞれの地域のご意見を参酌すると、別々の対応になっていく話だと思います。そういうふうにした方が

適切ではないかと思えます。自分が1つ気になっていることは、桧木内の意見交換会の際に、「なぜ、西明寺中学校、もしくは父兄の方々、地域の方々等との意見交換会がないのか」、「それがなければ、第3回目の意見交換会をやるということに不満を持たざるを得ない」という話があったわけで、そうなる、「今後の進め方」で書いてある11月下旬の「第3回学校適正配置に関する意見交換会」というのは、私としては、やはり西明寺中学校、もしくは、西明寺地区に何らかの形で意見交換をしたということがなければ、桧木内地区の方々に第3回目の意見交換会をお願いするということは、できないのではないかと、というふうに思います。ただ、この動きと中川小学校の動きとは、全く別物ではないかとも思います。それは、私の個人の意見です。ご要請のあったものについては、しっかりと対応していくというスタンスで、地域の方々の信頼関係を構築するには必要ではないか、と思えますので、要請をしっかりと受け止め、そして次のアクションを起こすということの繰り返しのほうがよろしいのかな、と思えます。

熊谷教育長 浦山教育次長、複数の方からそういう話がありました。なので、12月7日の西明寺中学校の保護者・住民説明会を11月の下旬のちょっと前あたりに設定してください。

浦山教育次長 11月の中旬頃で、いかがでしょうか。ただ、西明寺地区では意見交換会という形になるわけで、その後、第3回目の桧木内地区では方向性を提案することなので、やはり12月7日にも西明寺中でもう1回開催して、西明寺の方々にも方向性を提案しなければいけないのかな、と思えますがいかがでしょうか。

門脇市長 方向性を提案するとなると、やはり西明寺地区での話し合いがなければそこに入れないので、やっぱり必要だと思うので

す。だけれども、中川小学校と角館小学校の統合については、「できるだけ早くに」という話もあったことなので、統合に向けた作業を進めさせていただきたい。

どうですか、皆さま方。

安部教育長職務代理者

「事前協議」をしないとわかってもらえないのではないでしょうか。

浦山教育次長

はい。これはですね、今協議になりました、西明寺地区の意見交換会を先に設けるか設けないかという協議の中で、もし事前にやらないとすれば、ある程度、桧木内・上桧木内地区の方々に事前に協議を申し入れて、そして第3回目をやらせていただきたい、というような事前協議が必要なのかな、という話し合いでした。

門脇市長

もし、仮に西明寺地区で説明会をやったとして、それは第3回目の桧木内地区の前にやっている、西明寺地区の方からは、「ぜひ桧木内中学校と統合したい」という話が出る場面、そうではない場面、その話は、当然桧木内地区の方々にフィードバックする必要があると思う。何を言いたいかということ、そういう作業をしていないとやはりフィードバックできないのではないかと。もし、仮に西明寺中学校では、「様々なスポーツ活動、課外活動を充実させたい」という思いの意見が非常に多くて、「ぜひとも一緒にクラブチームを作りたい」という話になったとして、そういうふうなご意見があったということ、今度は、桧木内中学校の父兄の方々にした時に、どういうふうな話し合いになっていくか、というのは、そこは今想定できないものだと思うのです。なので、少なくともその情報だけは提供する、ということだけは、しなければいけないとあっていて、というのが自分の考え方としてはそうです。それで、それを含めて継続案件とさせていただいてこの後も、という話が1つ

と、前々から言っているとおりに、これを機会にぜひ、西木地区としての教育に関する意見を出し合う、そういうテーブルを作るということは、桧木内地区の皆さまに限った話ではなくて、西明寺地区の方々にも当然それをお願いして、参加していただかなければいけない組織体になると思うのです。そういうことをお話するためにもやはり必要ではないか、と。場面の提供は必要ではないか、と思います。

ここで休憩に入ります。

( 休 憩 )

門脇市長

会議を再開します。

休憩中に様々ご議論いただいた中で、関係する学校には、すべてしっかりとお話の会を持ってから、第3回目に向かっていこうと。日程調整については、事務局の方で段取りをお願いしたいということですが、よろしいでしょうか。

委員

(「はい。」という声あり)

門脇市長

はい。では、そのようにさせていただきたいと思います。

他に、この案件で何かお気づきのこととかなかったでしょうか。なければ、協議案件はこれで終わってもいいでしょうか。

委員

(「はい。」という声あり)

門脇市長

はい。ありがとうございます。大変良いご意見をたくさんいただきました。

では、次に、その他でありますけれども、説明をお願いします。

浅利教育次長

お手元の、エアコンの設置状況の表をご覧ください。9月現

兼総務課長

在で、一般質問等の際に答えた基礎になっている表です。あとは、新聞報道等を付けてみました。今のこの国の動きなりを見て、来年度もしかすれば、各学校の電気の配線等の調査を行わなければならないのではないかな、というふうな考えを持っております。以上です。

門脇市長

はい。今回の市議会でも色んなご議論になっている案件で、教育長もきちんと丁寧にご答弁いただいているわけでありましてけれども、子どもたちの教室等について、「エアコンを設置しなければいけない状況だよ」というご指摘が何人かの議員の方からありました。教育長も私もそうですけれども、ご答弁させていただいた内容としては、今国の方でそういうような対応の便宜を、事業を成立させたいという話を聞いている、という話をさせていただいております。けれども、優先順位を決めるのが中々難しい。というのは、学校間、学校内での学年、もしくは、クラスということで、一緒にやっついていかないと多分不公平感が出る、という話を教育長がご答弁されていますよね。ということで、一体で進むことなのか、今浅利教育次長が話したように、電気の配線等がどうなっているとか環境整備をするための事前調査が必要ではないか、という現状です。私としては、子育て、教育に係る事案については、優先順位は非常に高いと思っている、という話をさせてもらっています。来年度できるだけエアコンの設置について進めたい、ということです。財源の方について、まだまだ国の方の制度がはっきりわからない状況ですけれども、そこは見合いをしますけれども、仮に本体の設置なのか本体を設置するための条件を整備していくのか、この辺は教育委員会、教育長はもちろん皆さま方からご意見をいただいて進めていきたい、ということです。

他に、その他でありますか。

佐々木生涯学  
習課長

はい。生涯学習課の佐々木です。お配りしております、A3の紙があるかと思えます。「西木庁舎・西木総合開発センター計画平面図（素案）」をご覧ください。仙北市庁舎整備基本構想に伴って、西木庁舎・西木総合開発センターに、教育委員会、中央公民館の設置ということで、現在、企画政策課庁舎整備推進係と調整中ではありますが、まず、現段階まで話し合っている部分について、ご報告させていただきます。平面図の青線で囲んでいる部分が、中央公民館エリアとして考えているスペースでございます。また、庁舎2階には、教育委員会エリアとしております。また、中央公民館と教育委員会の間に教育委員会の書庫室を設置したいと考えております。各会議室や事務室等の区切りや机の配置等につきましては、今後、教育委員会全体で、協議を重ね計画を進めていかなければならないと考えております。なお、庁舎1階につきましては、西木地域センターの管理エリアになる予定で、計画が進められております。以上、経過報告とさせていただきます。

門脇市長

この案件については、以前から、教育委員会で中央公民館構想という議論の積み重ねがあつたにもかかわらず、西木庁舎の利活用について、行政当局と教育委員会の方々との意見の構築が中々できていない。と、ある時点での判断をさせていただいて、ここにある図面、まだまだこれでも不足するというふうにお思いの方々もいるかと思えますけれども、今現実的な対応としては、2階の部分をすべて教育委員会と中央公民館で占めさせていただく、1階の部分については、先ほどのお話のとおり、公民館エリアは総合開発センターのすべての建物ということでどうか、というようなことです。この話は、教育委員会の方では、何かお話になっている事案だったのでしょうか。

佐々木生涯学  
習課長

この素案は、3公民館と共有しております。何かお気づきの点がありましたらお願いいたします。

門脇市長           例えば、教育委員会として、中央公民館という名前の看板に、とてもこれだと書かれないというような、床面積、占有率等考えていけば、ちょっとそういう状況の時があって、それだとダメではないかということで皆さま方がご議論していただいて、統合庁舎の案件を精査している企画政策課とやり取りしていただいて、この素案の図面を創っていただいたと。これについては、教育委員会職員の間では、共有されているということではないですか。

佐々木生涯学習課長       現段階では、3公民館長と課長・次長・部長までです。床面積等については基準は満たしており問題ありません。

門脇市長           はい。皆さま方の評価としては、これは、企画政策課とやり取りした範疇だということでありますけれども、このスペースの確保ということで、まず何とかスタートできるのではないかと、という感触でいっていただけていると認識してよろしいでしょうか。広ければ広いほどいい、という話ではあるでしょうけれども。

佐々木生涯学習課長       構造に対する配置ということでいけば、これが限界かなと。ただ、先ほど市長がお話された、中央公民館の看板がふさわしいかという部分については、中々難しいかもしれないですが、中央公民館という方向で考えています。

熊谷教育長           あと私から1つだけ要望ですけれども、スポーツ振興課と文化財課、ものすごい量の書類、備品等ありますので、それを収納できるスペースがあれば。

佐々木生涯学習課長       その部分については、教育委員会全体で協議して進めていきたいと考えております。

門脇市長            そういう備品の一括管理、どうすることが一番合理的なのかも含めて検討していただければいいですね。

倉橋副市長         あと、普段使わない書類であれば、一括して集中的な管理するとか。別の場所で。多分そっちの方が合理的だと思います。

門脇市長            手続き的には、総務部の企画政策課と教育委員会で合体しないといけない事業だったので、総合教育会議で初めてこの図面を出させてもらったのですけれども、ぜひ、教育委員会で話し合っていただければありがたい、という案件です。何とか教育委員会の方で話し合っていて、教育委員会の総意を作っていたいただければありがたいと思います。よろしくお願いします。

                  他には、ないでしょうか。ないようなので、進行をお返しします。

阿部総務部長        そうすれば、その他にないようですので、ご貴重なご意見をいただきまして、大変ありがとうございました。

                  それでは、これを持ちまして、平成30年度第2回仙北市総合教育会議を終わらせていただきます。お疲れ様でした。

(午後2時20分終了)

上記会議録に相違ないことを認め署名する。

仙北市長

仙北市教育委員会教育長

仙北市教育委員会委員